

令和7年度 第1回水産研究所研究評価委員会 （中間評価結果）

日 時	令和8年3月2日（月） 13時30分～16時45分		
場 所	WEB会議		
委 員	国立大学法人 三重大学大学院生物資源学研究科 教授 国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産技術研究所 養殖部門 副部門長 指導部長 副理事長 代表取締役社長	筒井 直昭 正岡 哲治 堤 康夫 安村 富子 北村 裕司	
	三重県漁業協同組合連合会 生活協同組合コープみえ 北村物産株式会社		

中間評価 「志摩海域養殖漁場環境調査」

評価項目を、研究の進捗状況、目標達成の可能性、課題の取扱いとし、評価を実施した。結果は下表のとおりであり、研究の進捗状況について「ほぼ目標通り」と評価された。評価委員会における指摘・助言等を参考に、必要に応じ研究計画の見直しを行い、効果的・効率的に取り組むことで、目標の達成を目指す。

中間評価結果（数字は委員5名中の該当委員数）

課 題 名	研究の進捗状況				目標達成の可能性				課題の取扱い		
	計画以上	ほぼ目標通り	やや遅れ	遅れ	非常に高い	高い	やや低い	極めて低い	継続して完成させる	課題の整理、予算縮小が必要	中止すべき
志摩海域養殖漁場環境調査	—	5	—	—	—	5	—	—	5	—	—

事後評価 令和7年度終了課題

「イセエビ資源安定化技術開発事業」

「養殖魚の新しい疾病防除技術開発」

目標の達成度、技術の発展性、技術移転・普及の具体性、今後の研究方向について評価を実施した。各項目の評価結果は下記のとおりで、目標の達成度においては「ほぼ目標どおり」もしくは「一部不十分」の評価であった。

事後評価結果（数字は委員5名中の該当委員数）

課 題 名	目標の達成度				技術の発展性			技術移転・普及の具体性 (複数回答可)			今後の研究方向		
	目標以上達成	ほぼ目標どおり	一部不十分	不十分	課題全体として発展性あり	一部の中小課題について発展性あり	発展性は少ない	技術移転の可能性あり	製品化・普及の具体性あり	技術情報として有効	新規課題として未完成技術の発展を図る	未達成課題は継続して完成を図る	課題を終了する
イセエビ資源安定化技術開発事業	—	2	3	—	4	1	—	3	—	2	2	3	—
養殖魚の新しい疾病防除技術開発	—	2	3	—	2	3	—	1	—	4	—	5	—

事前評価 令和8年度の新規予定課題

「イセエビ資源安定化技術確立事業」

「未利用食材を活用した新たなブランドマダイの開発」

項目を研究の必要性、効率性、有効性とし、各項目について5段階（5点：かなり高い、4点：やや高い、3点：普通、2点：やや低い、1点：かなり低い）の評価を実施した。

結果は下表のとおりで、委員による各事業の総合評価は、4以上であった。

事前評価結果（数字は委員5名の平均得点）

課題名	必要性	効率性	有効性	総合評価 (平均)
イセエビ資源安定化技術確立事業	4.3	3.8	4.2	4.1
未利用食材を活用した新たなブランドマダイの開発	4.6	4.2	4.6	4.5